第２回　滋賀県女性の参画による防災力向上検討懇話会　概要

参考資料１

日時：令和元年7月１日（月）　10～12時

場所：滋賀県危機管理センター２階　災害対策室５・６

**議題（１）「検討フレーム（イメージ）」（修正版）の確認について**

第１回の議論を踏まえて修正した検討フレーム（座長案に「誰も取り残さない防災を目指す」を追加した６項目で構成される今後の施策の方向性を含む）について確認。主な意見は以下のとおり。

|  |
| --- |
| 【目指すところ】 |

〇一人ひとりの尊厳が大切にされていることが前提だと思うが、具体的な記載がないので、資料１や最終提言等のどこかに明記する方がよい。

〇個人情報保護の壁により、要配慮者は外部から「見えない」ので、本人から個人情報の提供について同意を得ることが必要。中途障害者ならば、健常者と障害者の両方の立場が分かるので、そうした人を起点にするとよいのではないか。

|  |
| --- |
| 【各段階における課題】 |

①②共通

〇「子育て世代の母親は、日々の子育てや家事に追われて防災活動に関わる余裕なし」との記載だが、子育て世代の母親たちはむしろ防災意識が高いが、講演会や防災訓練の内容は参加しづらいことに問題がある。（発言者の阿万委員から修正案を提出予定。）

④避難生活（避難所、在宅避難、その他）

〇「避難所以外＝自宅避難、車中泊、親戚友人宅避難等」と記載があるが、テント泊や指定外避難所も記載するべきではないか。なお指定外避難所については、「避難所生活」に含まれると思われるが、どちらに記載すべきか改めて考える。

⑤速やかな生活再建

〇「速やかな」よりも「スムーズな」が良い。速ければ良いわけではない。生活再建のための各種制度を利用できず困窮する人もいる。

〇「個別性に配慮した生活再建支援が必要」と追記してはどうか。

**議題（２）新たな施策の方向性について**

「新たな施策の方向性」（６項目）に基づく施策の概要および具体案＊について議論。主な意見は次のとおり。

＊課題解決のための具体的アイデアとして提出された委員提案のほか、事務局案を記載したもの

|  |
| --- |
| １　女性たちも地域防災の主体になる（エンパワーメント） |

〇県の男女共同参画計画に比べると記載内容が弱い。女性の能力への期待についても記載してはどうか。

〇女性が参加していないというと、様々な場面で参加しているのだが、目立つところではないため、参加状況が見えにくい。

〇避難所チェックリストをいくら整備しても、大きな不安を抱えて避難所生活をせざるを得ない人たちがいる。そうしたことについて声を上げることができたり、不安を取り除く場が必要。

|  |
| --- |
| ２　地域コミュニティの特性を考慮し、将来を見据える。 |

〇地域コミュニティの現状には、想定される災害も含めるべきである。（地域の自然特性やハザードマップについても考慮すべき）

〇住民自身が必要な情報を知り、自己決定していくことが大事。

〇彦根市の金城学区では、地域で補い合える減災体制を構築するため、18自治会で構成される自主防災連合会を組織しようとしている。

|  |
| --- |
| ３　誰も取り残さない防災を目指す。 |

〇手を上げない、団体等に属さない要配慮者をどのように拾い上げるかが問題となる。そうした要配慮者に対して、ケアマネージャー等から手を挙げるよう促してもらうとよい。

（要配慮者は誰の話ならば耳を傾けるかという問題）

〇要配慮者には、平時から生活に支障をきたしている方々に加え、災害発生時の環境の変化により避難生活が困難となる方々（例：ひとり親家庭）もいる。

|  |
| --- |
| ４　習得した防災知識を実践につなげる。５　担い手の裾野を広げる。 |

〇県が行う防災士養成講座では、例えば市町からの推薦を男：女＝１：２に割り当てるといったことや、自治体以外の団体にも推薦を呼びかける等してはどうか。

〇「自治会等」を「自治会・自主防災組織」に訂正。

〇防災関係団体間での情報交換が十分とは言えない。

〇以下の理由から、「学校」というキーワードは大事なので、取り入れるべき。

・子どもの頃が一番教えやすい。

・障害のある子どもが、障害を理由に他の子どもと一緒に防災活動に取り組まないと、その後も防災活動に関わりを持たなくなる。

・子どもの教育を通じて母親も取り込む。

〇「一部の人間（消防団員、防災士等）」とあるが、防火クラブ員は１万人ほど存在するので、「一部の人間（消防団員、防災士、防火クラブ員等）」にしてほしい。

〇最近の防災訓練では、課題解決型の防災訓練が求められているので、そのように記載してはどうか。

〇ママ友のネットワークは影響力が大きいため、担い手としての期待ができる。

|  |
| --- |
| ６　防災対策は、災害発生前から発生後までのトータルで考える。 |

〇特になし

**３　今後の予定**

〇第３回は８月下旬を予定

〇各委員は、今回の資料（特に資料２）に対する意見（修正点、追加点）を提出

〇座長を補佐するため、有志によるワーキンググループ（作業部会）を８月上旬に開催